**わくわく聖書セミナー　第８回　「詩歌と知恵文学」**

律法は、神と共に歩む歩き方を教え、預言書はその歩き方からの逸脱を戒めるものでした。

けれども、人には正しい教えと戒めだけでは十分ではないことを、神は知っています。人は悩み、問い、不安を訴え、喜びを歌います。詩歌は、そのような人の様々な思いをケアしています。

**詩篇**

★神は私たちの思いや感情を受け止めてくださる。

　詩篇には、信仰者の生活の素顔が鮮やかです。喜び、悲しみ、恐れ、失望、また、神への信頼や感謝も、多く表明されています。

詩篇19篇

　天地を治めておられる神、完全で正しい神を賛美したあと、その神が私たちの心の奥底の罪まで取り扱われることを語ります。

詩篇23篇

　詩篇の中でもっとも有名な詩です。神への全き信頼を表現しています。羊のように愚かで弱い私たちを養い、守って下さる神様です。6節、どこまでも追ってくる神の愛と恵みが神への信頼の根拠なのです。

詩篇42篇

　失望している自分とそれでもまだ神を信頼しようとしている自分。誰でもこのように心が揺れることがあります。そんな心の揺らぎをも神に知られており、受け止められていることを知ることができます。

詩篇58篇

　6節以降に復讐のことばがありますが、神が復讐を奨励しているように読むべきではありません。神はそのような感情を受け止めて、心の深いところからのいやしと回復を差し出してくださいます。（この作者ダビデは、自分の手で復讐することはありませんでした。）

**雅歌**

★聖書では肉体や性を精神より劣るものとはしていません。

　雅歌はユダヤ人の間では、成年に達するまで読むことが禁じられていたそうです。それほど率直に男女の愛が描かれています。

　キリスト教会は、キリストと教会の関係を描いたものとみなしています。

**ヨブ記**

★苦難には意味がある。

　神の目にも正しく生きてきたヨブに不当な苦難が訪れます。友人たちはヨブに原因がある（因果応報）と考えましたが、それは間違いでした。

・苦難にある人々が神に「なぜ？」と問うことは誤りではありません。その問いはすぐには答えられないかもしれませんが、問い続けることで神との関係が深められていきます。

・苦難は罪の結果でも、罰でもありません。また現世で成功している者、苦難のない者が「勝ち組」ではありません。神様は現世利益をはるかに超える愛の絆を私たちと結ぼうとされています。

・苦難には意味があります。私たちに知らされていないだけで必ず意味があります。

・神は最後には公正な決着を与えます。

**箴言**

★神と共に歩む私たちの人生の指針となる格言

　その中心は「主を恐れよ」（1章７節）

家庭について　５：１８、６：２７－２９

友情について　１６：２８、２７：２７

言葉について　１２：１８、１５：１

主を畏れる　　３：１１－１２

公正と正義　　１７：２３、２０：１７

富と貧困　　　１５：１７

**伝道の書**

★神なき人生はむなしい

「空の空。すべては空」（１：２）

「若い日に創造者を覚えよ」（１２：１）

「神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」（１２：１３）

☆次回から新約聖書になります。マルコ福音書5章を読んでおいてください。